

グローバル・ヘルス・サミット “Advancing our promises for TICAD IV / G8 and beyond”

世界銀行との共催にて、グローバル・ヘルス・サミットを開催

小泉元首相による基調講演で開幕

北海道洞爺湖での先進8カ国首脳会合(G8サミット)や横浜で開催されるTICAD(アフリカ開発会議)などの重要日程を控え、国内外でグローバル・ヘルスに対する関心が急速に高まっています。

このような中、日本医療政策機構は世界銀行との共催による「グローバル・ヘルス・サミット」を開催。国内外から政府、国際機関、経済界、市民社会、財団などのリーダーが一堂に会し、熱い議論が展開されました。



会議は、アフリカにおける保健医療分野の研究に貢献した医療従事者や研究者に贈られる「野口英世アフリカ賞」を創設した小泉純一郎元首相による基調講演で幕を開けました。小泉元首相は健康における栄養や公衆衛生の重要性に触れた上で、環境問題に加えて保健分野でも日本が主導的役割を果たす必要性について言及しました。

続けて、国際協力機構(JICA)の緒方貞子理事長によるビデオメッセージでは、「人間の安全保障」に基づいた、保護政策と自助努力の双方のアプローチが重要であると強調されました。

世界銀行副総裁で、元ボツワナ保健大臣のジョイ・プマピ氏(写真左)は、グローバル・ヘルス分野での日本のリーダーシップと国連ミレニアム開発目標の早期達成に向けた途上国の保健システム強化への支援を強く求めました。



日本医療政策機構
Health Policy Institute, Japan



引き続き、NHK解説委員で国際情勢や途上国開発のエキスパートである道傳愛子氏をファシリテーターとしてパネル・ディスカッションが行われました。被支援国、財団、市民社会、経済界、国際機関をそれぞれ代表してジェイ・ナイドゥー氏(南アフリカ開発銀行会長)、タチ・ヤマダ氏(ビル&メリンダ・ゲイツ財団プレジデント)、山本正氏(日本国際交流センター理事長)、米倉弘昌氏(住友化学株式会社社長)、前田明子氏(世界銀行人間開発ネットワークマネージャー)が、それぞれの活動内容について概説したのち、「日本はどのような貢献ができるのか？」をメイン・テーマにディスカッションを行いました。

さらに、外務省地球規模課題審議官の鶴岡公二氏からは「TICAD /G8へのロードマップ」と題し、グローバル・ヘルス分野における日本政府のこれまでの取り組みやG8に向けた今後のプロセスが述べられました。

また、サミットが開催される洞爺湖が選挙区である鳩山由紀夫衆院議員より「Welcome to Toyako」と題したビデオメッセージが紹介され、最後に日本医療政策機構代表理事の黒川清による閉会の辞で幕を閉じました。

